令和３年度（2021年度）

「市長と語る」の記録

あなたのみちを、
あるけるまち。
八王子

八王子市

は　じ　め　に

市民の皆様と市長との対話を通じて、市政への理解を深めていただくとともに、市政に対する意見や提言を市長が直接聴くことで市民の声が届く市政を推進することを目的に対話集会を開催しております。しかしながら、昨年度は新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から実施を見送らざるを得ないこととなりました。

令和３年度は、当初の感染者数が拡大していく状況からワクチン接種が進むにつれて一定程度の抑制が図られてきましたが完全な終息には至らず、新たな変異株の感染拡大への懸念もあったことから、実施時期を 11 月下旬に変更するとともに無観客で行い、収録した動画を後日配信することといたしました。

今回は「私が考える未来の八王子」をテーマに、未来を担う若い世代の方々を含む、幅広い年齢層の方にご発言をいただきました。

八王子に住み続けてきた経験に基づく率直なご提言をいただき、地域での活動や課題等を幅広い世代の皆様とも共有することができましたことにつきまして、改めて感謝申し上げます。

今回いただいたご意見・ご提案は、来年度に策定する本市の長期ビジョンの参考としてまいります。

目　　次

1　意見・要望等項目別件数 …… 1

2　テーマ等 …… 2

3　所管別内容

（1）所管別件数一覧表 …… 2

（2）所管別件名一覧表 …… 3

4　意見・要望等及び市長コメントの要旨 …… 5

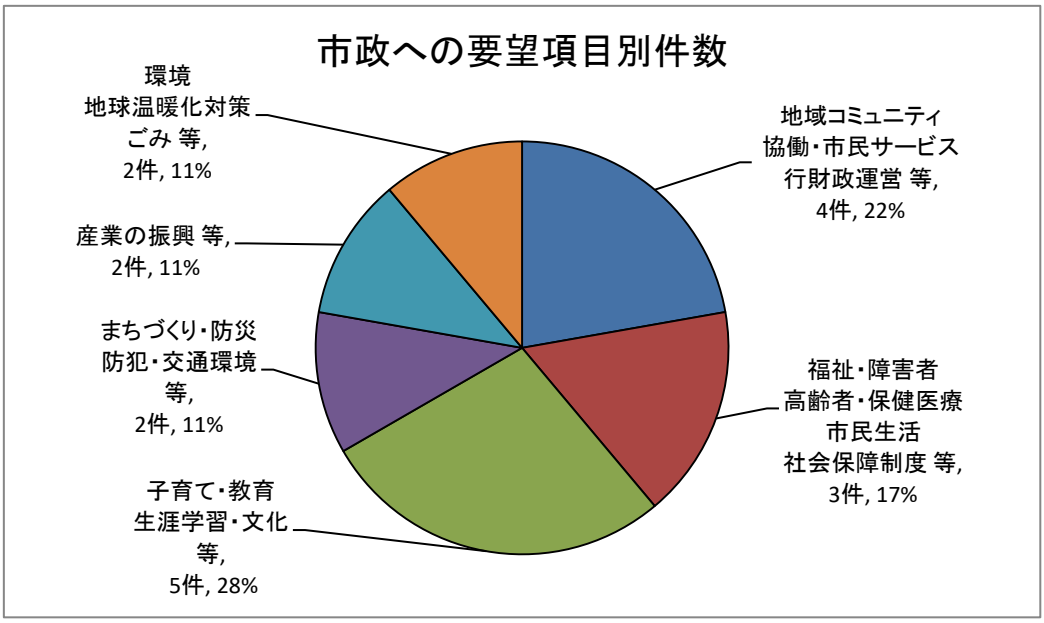
5　過去の提案等取組状況 …… 23

6　開催案内ポスター …… 29

1　意見・要望等項目別件数

意見・要望等項目の分野	件数
地域コミュニティ・協働・市民サービス・行財政運営 等 （第1編 みんなで担う公共と協働のまち）	4
福祉・障害者・高齢者・保健医療・市民生活・社会保障制度 等 （第2編 健康で笑顔あふれる、ふれあい、支えあいのまち）	3
子育て・教育・生涯学習・文化 等 （第3編 活き活きと子どもが育ち、学びが豊かな心を育むまち）	5
まちづくり・防災・防犯・交通環境 等 （第4編 安心・快適で、地域の多様性を活かしたまち）	2
産業の振興 等 （第5編 魅力あふれる産業でにぎわう活力あるまち）	2
環境・地球温暖化対策・ごみ 等 （第6編 一人ひとりが育てる、人と自然が豊かにつながるまち）	2
合　　計	18

※ 分野の区分は、基本構想・基本計画「八王子ビジョン2022」の都市像による。



2　テーマ等

（単位：人）

開 催 日	会 場	テーマ	発言者数
11月27日	生涯学習センター（クリエイトホール5階）	「私が考える未来の八王子」	11

※新型コロナウイルス感染症対策のため無観客で実施

3　所管別内容

（1）所管別件数一覧表

（単位：件）

部　　名	件 数	部　　名	件 数
都市戦略部	3	産業振興部	2
デジタル推進室	1	環境部	2
未来デザイン室	1	資源循環部	1
市民活動推進部	3	まちなみ整備部	2
福祉部	2	学校教育部	1
医療保険部	2	生涯学習スポーツ部	3
子ども家庭部	3		
		合　　計	26

※一件の発言に対し、担当が複数の所管にまたがることがあるため、発言項目数と件数が異なる。

（2）所管別件名一覧表

都市戦略部　3件

案件番号	発　言　項　目
1	地域コミュニティを活性化する場を作ること
2	未来を担う人材育成と八王子で働きたい人が働ける環境づくり
6	世代を問わず情報が行き渡る仕組みづくり

デジタル推進室　1件

案件番号	発　言　項　目
7	町会活動を若者の活動の場にすることによる活性化

未来デザイン室　1件

案件番号	発　言　項　目
1	地域コミュニティを活性化する場を作ること

市民活動推進部　3件

案件番号	発　言　項　目
3	学生が住み続けたいと思うまちづくり
6	世代を問わず情報が行き渡る仕組みづくり
7	町会活動を若者の活動の場にすることによる活性化

福祉部　2件

案件番号	発　言　項　目
2	未来を担う人材育成と八王子で働きたい人が働ける環境づくり
5	誰もがやりがいを持ち、一人ひとりの経験や力を活かしながら安心して長く働ける環境づくり

医療保険部　2件

案件番号	発　言　項　目
2	未来を担う人材育成と八王子で働きたい人が働ける環境づくり
9	育児者等が住みやすいまちづくり

子ども家庭部　3件

案件番号	発　言　項　目
4	今よりも子育て支援に重点を置いたまちづくり
6	世代を問わず情報が行き渡る仕組みづくり
9	育児者等が住みやすいまちづくり

産業振興部　2件

案件番号	発　言　項　目
1	地域コミュニティを活性化する場を作ること
2	未来を担う人材育成と八王子で働きたい人が働ける環境づくり

環境部　2件

案件番号	発　言　項　目
8	環境に優しいまちづくり
11	里山で体験し、環境意識を高めるまちづくり

資源循環部　1件

案件番号	発　言　項　目
8	環境に優しいまちづくり

まちなみ整備部　2件

案件番号	発　言　項　目
3	学生が住み続けたいと思うまちづくり
11	里山で体験し、環境意識を高めるまちづくり

学校教育部　1件

案件番号	発　言　項　目
10	「日本一の教育都市　八王子」の実現

生涯学習スポーツ部　3件

案件番号	発　言　項　目
2	未来を担う人材育成と八王子で働きたい人が働ける環境づくり
6	世代を問わず情報が行き渡る仕組みづくり
10	「日本一の教育都市　八王子」の実現

４　意見・要望等及び市長コメントの要旨

テーマ「私が考える未来の八王子」

令和３年（2021 年）11 月 27 日（クリエイトホール）

案件番号	意見・要望等要旨（発言者）	市長コメント要旨	担当所管
1	**【地域コミュニティを活性化する場を作ること】** 学生時代、東日本大震災で宮城県の南三陸町にボランティアに行った際、様々な年代の方が自然と集まり、交流が生まれる個人商店の力の大きさを感じました。 来年、南大沢で家族と一緒にヨガスタジオとカフェを併設した施設を作る機会をいただいたので、定休日には地元の方に間借りカフェのような形で開放し、様々な方との出会いや刺激を得られるような場所になればと思っています。 八王子の「あなたのまちを歩けるまち八王子」という言葉がとても素敵で、道行く人が挨拶を交わし、活き活きと自分らしくしている方が多いまちは、どの世代の方も楽しく笑顔で過ごしている印象があります。 八王子も魅力的な自然や伝統文化があり、住んでいる人が心から楽しめるようになると「あなたの道を歩けるまち」という言葉に合った八王子になると思います。 （田中 麻衣 様）	地域コミュニティの形成については、令和２年（2020 年）３月に「八王子市地域づくり推進基本方針」を策定し、誰もが安心して住み続けたいと感じられる「活力ある魅力あふれるまち」の実現に向け、地域単位で課題を共有し、解決を目指すとともに、地域が主体的に解決に向けて協働していく地域づくり推進事業を進めており、この事業が、新たなコミュニティの形成や地域独自のイベントの開催等、更なる地域コミュニティの活性化につながることを期待しています。 地域活性化のための起業家への支援では、八王子商工会議所やサイバーシルクロード八王子、多摩信用金庫、日本政策金融公庫と連携する中で、創業に関する個別相談や「本気の創業塾」といった講座などを実施しています。 こうした取組みによって様々な新しい事業を生み出し、本市の産業を活性化させ、地域を元気にしたいと考えています。 都会のにぎわいと自然の心地良さがバランスよく調和した八王子には、多様な生き方、働き方、学び方、遊び方を選べる環境があり、これからも、市民の皆さんが、自分らしいみちをあるけるまちづくりを進めていきます。	都市戦略部 未来デザイン室 産業振興部
2	**【未来を担う人材育成と八王子で働きたい人が働ける環境づくり】** 未来を担う人材の育成と八王子で働きたい人は働ける環境づくりをやっていきたいし、やっていただきたいと思っています。今の少子高齢化の中で、未来に向	本市におきましては、人口減少問題に向き合うために、「八王子市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、「ひとづくり」「しごとづくり」「まちづくり」を一体的に	都市戦略部 福祉部 医療保険部 産業振興部 生涯学習スポーツ部

案件番号	意見・要望等要旨（発言者）	市長コメント要旨	担当所管
	けての人材の育成と人の活用ということを考えていきたいと思っています。 まず、未来にマッチした人材の育成というとことですが、例えばITの技術者、環境保護の人、医療・介護とか、そういった専門知識を持った人の育成を図るべきだと思っています。そのため、教育を受けたい人に、その教育の支援を行うことが必要なのではないでしょうか。学び直しの機会が与えられることが重要だと考えています。 それからもう１つは、八王子で働きたい人が働ける環境づくりの方ですが、先ほどの育成した人が力を発揮できる環境を確保し、せっかく育成した人が市外へ流出せずに八王子のために尽くしてくれるようにすることが必要だと思っています。 高齢者の活用については、私の住む地域の高齢者が様々な経験を持っています。私自身も、町内会の清掃とかやっていますが、それだけではなく、その人達の経験を活かした活動も応援できれば、もっと活性化できると思っています。 （渡部 修一 様）	進めることで、雇用がまちに人を呼び込み、それが新たな雇用につながるという好循環を生み出すまちづくりを進めています。 人材育成と市内への就職のための取組の１つとして、本市では、地域医療を守るため、昭和50年に、都内唯一の市立の看護専門学校である八王子市立看護専門学校を設置しています。100名を超える学生が看護の道を志し、日々、学んでいて、市内医療機関との連携も強く、卒業生が、八王子市内の病院に就職し、これまで約2,000人の方が医療従事者として活躍し、地域医療の未来を支える場となっています。 また、市内で就職を希望する方には、市内企業の情報を掲載したWEBサイト「はちおうじ就職ナビ」を運営し、情報を提供しています。 高齢者の活躍の場の１つとしては、シルバー人材センターがあります。働く意欲のある高齢者、約2,500人が会員として登録していて、豊かな経験・知識・能力を活かしていろいろな市内の仕事をしていただいています。 人生100年時代の到来とともに、学校を卒業し社会人になった後も新たな知識や技能、教養を身に付けキャリア形成につなげられるような学び直しについては、今年度、いちょう塾などの講座情報を一元化した、八王子リカレント教育支援アプリ「はちリカ」の導入や、働く意欲のある元気な高齢者の方を支援するための「みんなのおしごと応援ハンドブック」を作成するなど、高齢者の働き方に関する新たな取組を行っています。 人生を豊かに生きていくためには、生涯現役を貫きたい、趣味の時間を充実させたいなど人それぞれだが、ご提案のとおり、まだまだ働きたい方も多くいますので、熟	

案件番号	意見・要望等要旨（発言者）	市長コメント要旨	担当所管
		練した能力をマッチさせる環境整備は必要だと考えています。働きたい方にできるだけ数多くの情報を流し、市内で活躍していただく、そんな環境を提供したいと思います。	
3	**【学生が住み続けたいと思うまちづくり】** 私は、大学生がこのまちに住み続けたいと思うためには、大学生が直接八王子のまちづくりに関わることで愛着を持つことが大切だと考えています。 私は、大学１年生の時に八王子に来てから、子ども食堂とか小学校でのボランティアや、ごみ清掃などのボランティアをする中で、地域の方と交流することで八王子の魅力を知り、八王子のまちが好きになっていきました。 一方で、あまり地域との関わりが無かった大学生たちが、せっかくいろいろな所から八王子に来ているのに、この魅力を知らずに大学を卒業したら地元に帰ってしまうということを聞いて、残念に思っていました。具体的に私が考えたのは、専門分野を活かして、まちづくりに参加していくということで、いくつか考えた例を紹介すると、健康や美容に興味のある学生たちで、高齢者施設や子供たちのためにイベントを企画して、楽しく交流する場を作ることなどです。私は看護学生なのですが、実際に高齢者施設に行って、保健所の方と協力したりして、健康のイベントをやってみたいという思いがあるので、そういう自分の専門分野を活かした学生たちが集まって、活動できたらいいなと思いました。 また、絵やデザインとかが好きな学生による観光スポット、インスタ映えスポットなどを作って、若者が興味や魅力を感じる場所を作れたらいいなと思いました。私は南大沢に住んでいて、南大沢のアウトレットには若い人たちがよく行くので、そうい	木戸さんのご意見のとおり、学生が卒業後、本市に定着しないことはこれまでも課題であると認識しています。 学生が卒業後、本市に定着しない理由については、様々あるかと思いますが、ご意見のとおり地域との関わりを持つ機会がなく、まちへの愛着を持てなかったというのも、理由の１つとして挙げられると思います。 八王子市には市内や周辺地域の 25 大学等や市民、経済団体、行政等で構成する連合組織「大学コンソーシアム八王子」があります。ここでは、大学間の連携、学生の地域活動支援、産業・学校・公共団体が連携して、各種事業を展開し、学園都市づくりを進めています。 また、大学コンソーシアム八王子が主催している「学生発表会」や「学生企画事業補助金」制度などの事業については、学生の皆さんが市内の様々な場所に足を運んで、市民や企業の方々と共に活動する機会となっていて、地域とのつながりを持つきっかけや八王子の多彩な魅力を発見する貴重な機会となっています。 一方で、大学コンソーシアム八王子の活動については、必ずしも多くの学生の皆さんに浸透しているとは言えないという点があります。今後も、大学コンソーシアムの更なる周知を図りながら、学生を地域での活動や学生間の交流につなげていく必要があると考えています。 この他、団体を通じなくても、各所管で様々な取組みを行っていまして、例えば、	市民活動推進部 まちなみ整備部

案件番号	意見・要望等要旨（発言者）	市長コメント要旨	担当所管
	うところで絵とかデザインが好きな学生たちが、何かできたらいいなと思いました。 　他にもボランティアに興味のある学生たちが、ニーズのあるところに行って支援したり、私の周りにもボランティアをしたいけど、どこに行ったらできるのかわからないとか、自分もやってみたいけど何ができるのかなぁと言っている友達も多いので、そういった需要供給が伴うようなネットワークの輪を作ったり、積極的に参加できる場があったらいいなと思いました。 　これらを考えていく中で、なかなか学生の力だけでは難しいというのを私も実際ボランティアをやりながら感じることも多かったので、最寄り駅の地域の企業の方とか行政の方とか学校の方とか、いろいろ地域を巻き込みながら学生と地域の方とがコミュニケーションをとれる場があったらいいなと思いました。 　そういった中で、7 月 17 日に八王子カレッジサミットという、様々な大学の学生たちが有志で行った SDGs を推進するイベントがあり、そこには学生と大学の教授、こども食堂とか地域の方とかを呼んで、一緒にディスカッションする場がありました。そこでは、八王子のソーシャルキャピタルということで、どうしたら学生がこの八王子に住み続けたい気持ちになるかという話をしていましたが、それがとても有意義で、企業の方とか地域の学校とか全て含めたコミュニティの場、プラットホームがあればいいなとすごく感じました。 　もっと若者たちが自分の専門分野を生かして、八王子市を自分たちで作ったというアイデンティティを持って、愛着を持てば、もっと活気のあるまちになるし、そうしていきたいなと思いました。 （木戸 彩香 様）	地域住民と一緒に学生が活動している取組みを紹介しますと、市内大学のゼミの学生が、市民によるまちづくり協議会のメンバーとして一緒に活動したり、市内外の大学生の参加による「まちあるき」等、学生たちの協力を得て、地域住民の皆さんとともに景観まちづくりワークショップといったものも行っています。 　ご提案を伺って、住んでいる地域で、学生が参加できる場やこんなことを手伝って欲しいといった情報提供ができる仕組みも必要であると感じました。	

案件番号	意見・要望等要旨（発言者）	市長コメント要旨	担当所管
4	**【今よりも子育て支援に重点を置いたまちづくり】** 生まれも育ちも八王子の私は、この緑豊かなまちが大好きです。だから、八王子についてあまり知らない人にも、八王子の良さを分かってほしいと思いました。 私が考える未来の八王子は、子どもたちの笑顔で溢れる八王子です。子どもたちが元気に活き活きと充実した生活を送ることができる。そんなまちにしたいです。そのためには、今よりも子育て支援に重点を置くことが大切だと思いました。 そこで、私は子育て中の方をみんなで支えていくことを考えました。 先日、ニュースで親が精神的に追い込まれてしまい、子どもへの虐待に走ってしまったという悲しい出来事を知りました。その親は、きっと子どもと楽しい生活を送りたかったはずです。 では、なぜこのような残念なことが起きてしまったのでしょうか。理由として、育児に行き詰まったから、孤独感から不安でいっぱいになってしまったからなどが挙げられました。 特に誰もが初めての子育ては、分からないことがたくさんあります。だから、思い通りにいかないことがとても多く、想像以上に大変なこともあると思います。 だから、そんな大変な状況にある方々を、みんなで優しくサポートできるまちにしたいと考えました。 まず、子育てに対して豊富な知識のある方に相談できる環境を整えることです。 困った時に１人で抱え込んでしまわないよう、その人の心の不安を取り除き、少しでも安心してもらうことが最適です。 これから育児を始める、もしくは現在育児中の方と育児経験のある方が繋がる場を設けたいと思います。	木村さんのお話にもありましたが、子育てにかかる経済的な負担は少しでも少なくして、安心して子育てができる環境を作ることは、未来を担う子どもたちが健やかに育つためにも必要な手立ての１つであると考えています。 また、児童手当の見直しについてもご提案いただきましたが、児童手当につきましては、児童手当法という法律に基づいています。 国が定めた基準に則って支給していますので、手当の金額や対象となる児童を、市が独自に広げることはできないものになっています。 児童手当とは別に、八王子市独自の手当制度を設けることも１つの方法ですが、それには、手当を長期にわたり継続的に支給するための財源を確保することが必要となります。 市においては、子育て支援として、保育園や幼稚園、生活に困っている子どもたちや家庭の支援など、様々な施策を行っています。 未来を担う子どもたちに今後どのような支援が必要とされるか、安心して生活していくためには何が必要かなど、しっかり検討しながら、今後も市の事業を行っていきたいとに考えています。 また、コロナ禍における一時的な対応としては、働いている方たちもリストラや勤務条件の変更などによって、以前のような収入を得られず、特に子育て世帯が経済的に困っているという状況もあります。 そのため、新型コロナウイルス感染症の影響を受けたひとり親家庭に対し、収入が大きく減ることになった家庭を対象とした国の給付金に加えて、本市独自に児童扶	子ども家庭部

案件番号	意見・要望等要旨（発言者）	市長コメント要旨	担当所管
	更に、不安に思っていること、質問したいことを自由に書き込め、ベテランの方がそれに答えるというシステムの確立を提案します。 この手法だと、日々が忙しく、先ほどのように会って話すことができない人でも、隙間の時間に気軽に聞くことができます。 どちらも周りの人とコミュニケーションを取ることが目的で、気持ちが楽になり、子育てができるのではないでしょうか。 他にも経済的な面に関しても支えることはできないでしょうか。出産や子育てには、多くの費用がかかり、親への負担が大きくなります。具体的には乳児に必要な育児用品の配布や児童手当の見直しです。 新型コロナウイルスの影響により失業してしまった方はたくさんいるとニュースや新聞で知りました。また、子どもが小さい頃は、なかなか働きに出ることが難しい方もいます。 そのような状況の家庭は、かなりの負担になるはずです。よって、そのような家庭でも心配なく子育てに専念できるよう経済的な面でも支えたいと考えました。 以上の取組みによって出産に対しての気持ちが前向きになり、子どもの数が増加して、八王子を活気のあるまちにしたいと思います。それが、私の考える子どもたちの笑顔で溢れる未来の八王子です。 （木村 陸人 様）	養手当受給者への臨時給付金も支給したところです。 他にも、子育て世帯を対象とした食料品の提供を複数の事業者と協力して行っている団体、子ども食堂などの活動に対しては、子育て応援企業をはじめとした企業、個人からの食料品等の提供をお願いするとともに補助などの支援も行っています。 市としましても、引き続きこうした支援を考える必要があると考えています。 今後も、取組を進めていくためには当然ながら、実施する上での経費が必要となりますが、そのための財源確保とともに、その効果も十分に検証しながら、いただいたご意見を参考に、必要となる人々に必要な支援が行き届くようにしていきたいと考えています。	
5	**【誰もがやりがいを持ち、一人ひとりの経験や力を活かしながら安心して長く働ける環境づくり】** 私も生まれも育ちも八王子です。八王子が私をここまで成長させてくれたと思っています。今日の「市長と語る」を機に、八王子がさらに魅力のあるまちになってくれればいいなと思っています。	本市では、専門性の高い職員を配置した八王子市障害者就労生活支援センター「ふらん」により、障害特性の違いを理解した就労支援等を実現しています。 「ふらん」においては、就職を希望する	福　祉　部

案件番号	意見・要望等要旨（発言者）	市長コメント要旨	担当所管
	私が考える未来の八王子は、地域で暮らす、誰もがやりがいを持ち、一人ひとりの経験や力を活かしながら安心して長く働ける環境になってほしいというものです。今、私は障害がある人たちと一緒に働いています。障害がある人については、法定雇用率の改定や支援制度、特例子会社の増加などで就職者数は増えています。 しかしながら、ご本人の体力や障害特性に合わせた環境整備、加齢に伴うサポート体制がまだまだ十分ではないと感じています。実際、就職してもなかなか環境に馴染めずに休みがちになってしまったり、会社を辞めてしまうということもよくあります。障害のある人の就労が安定し、継続して勤務していくには、業務面の支援だけではなく、働く上で土台となる生活の安定に向けた支援が不可欠だとご本人やご家族と接する中で日々感じています。 仕事面のテクニックは徐々に身についていくのですが、友達関係や家族関係、健康管理、余暇活動など、生活面は会社側ではアプローチが届きにくいということがあります。雇用側の努力だけではなく、地域の福祉、就労支援センターなどの就労機関、医療、その他、人とのつながり全体でサポートできる体制が必要だと思います。 障害のある人の様々な困り事に対して、地域がスピード感をもって対応し、雇用側と連携を取りながら解決できるととても心強いのではと思います。 八王子の強みは、数多くの社会資源と郷土愛のある市民の存在だと思います。連携を深めていけば、就労の安定だけではなく一人の市民として毎日が豊かな生活につながっていくと期待しています。また、障害のあるなしに関わらず、家族の介護を抱えながら働く人や、子どもを育てながら働く親、家族の変化や自身の病気、障害、高	障害のある方に対して、仕事を探すための相談から、職場へ慣れ、仕事が軌道に乗るまでの様々な支援を行う「就労支援」、安心して働くための日常生活に関する相談、助言を行う「職業生活支援」、などを実施しています。 また、就職する方が職場に慣れて安心して働けるように、専任スタッフが事業所を訪問し、事業所のルール、作業などの実務を習得するための助言や、事業所に対して環境調整や指導方法などに関する助言や相談を行う「ジョブコーチ支援」を実施しています。 また、本市においては、民間事業者に障害者就労をお願いするばかりではなく、自治体が率先して障害者が働く場を提供する「障害者就労支援に係る庁内ワークシェアリング推進事業」も実施しています。 これは、市役所内の各課で軽作業にあたる業務を掘り起こし、その業務を障害のある方に担ってもらうことにより、障害者の職域の開拓、障害当事者本人の勤労意欲の喚起、障害者就労への理解促進を図るものです。 更には、障害者地域自立支援協議会を活用し、ハローワークや特別支援学校、企業等との連携を図り、障害者の就労生活を推進するとともに、市内企業への障害者雇用の働きかけや、障害者就労・生活支援センターのジョブコーチ派遣等により、企業が雇用しやすい環境整備に関する働きかけを行っています。 障害者が働きやすい社会を実現するためには、先ほどお話をしたジョブコーチ支援の導入などの障害者への緩やかなサポートや受け入れる側の社会が何の偏見もなく障害者を受け入れる意識の醸成が必要不可欠であると考えています。 また、科学技術の発展により、様々な手	

案件番号	意見・要望等要旨（発言者）	市長コメント要旨	担当所管
	齢などライフステージごとに様々な出来事があって、時には働くことを諦める選択肢をしないといけないことがあります。しかし、どのような状況でも働きたい気持ちがある人を応援し、社会から切り離されることなく、家族、職場、地域、環境全てで受け入れて共に支え合っていける八王子であってほしいと思います。 （出浦 和博 様）	段も確立してくる中、雇用の選択の幅が格段に広がることも予想され、障害者の社会参加がますます促進されるものと思われます。 お話のように障害のある方が長く安定して働くためには、家族の変化やご自身の病気の進行度、高齢に伴うものなど、生活の安定に向けた支援も必要であり、地域が支える仕組みの構築も課題となっています。 障害者就労に長年携わっている出浦さんから、その経験に基づく貴重なご意見をいただきましたので、市としてもそうした社会の実現に向けて、できる限りの取組を進めていきたいと思います。	
6	**【世代を問わず情報が行き渡る仕組みづくり】** 私が考える未来の八王子は、子どもも大人も高齢者も笑顔あふれる八王子ということです。私は、子ども２人の４人家族です。子育て世代ということを踏まえて、感じたことをお話しさせていただければと思います。 私が提案したいのは、世代を問わず情報が行き渡る仕組み作りです。 具体的には２点ありまして、１点目が得たい情報を得られる仕組み作り、そして２点目がお祭りなどの体験を情報として得られる仕組み作りです。まず、１点目の得たい情報を得られる仕組みづくりですが、休日なので子どもとどこかお出かけに行こうと思った際に「八王子　イベント」のようにインターネットで検索をかけたとしてもなかなか得たい情報が見つからなくて困ったことがありました。例えば、ユーロードやみずき通りなどでイベントが行われているとは思うのですが、その開催されているイベントの情報が限定的であったり、また規模が小さいと見つからないということがあり、後になってどのような	発言にもありましたが、コロナ禍において、町会・自治会活動（お祭り、防災訓練、防犯パトロールなど）が思うように実施できなかったことや、市の事業についても中止や延期をせざるを得なかったこともあり、地域住民同士で交流する機会が減少しています。 こういった行事は、地元への愛着を育て、安心安全な地域づくりにも繋がることからも、コロナ禍において地域住民同士の交流が減ったことは、とても残念に感じています。 特に子どもたちが健やかに育ち、豊かな人生を歩むための１つとして、文化や芸術を体験することは、何事にも代えがたい経験になると考えています。 本市の文化共有体験については、市民文化祭・多摩伝統文化フェスティバル・伝統文化ふれあい事業などを実施しており、コロナ禍でも対応できるよう一部の事業では、対面実施とオンライン実施を併用して始めています。 本年６月に開館した桑都日本遺産セン	都市戦略部 市民活動推進部 子ども家庭部 生涯学習スポーツ部

案件番号	意見・要望等要旨（発言者）	市長コメント要旨	担当所管
	ことが行われていたかを知るということがありました。情報を得る手段としては、インターネットで検索をするのですが、イベントといっても様々なものがあり、発信元が複数であったりといったような状況では、地域を絞った情報を得ることがなかなか難しくなっているのかなと思います。そこで、イベントや催し物や関連する行事などの情報を発信できるプラットホームのような仕組みを作れれば、それを活用し、街中にワクワクしながら出かけることができるのではないかと思っています。 ２点目は、お祭りなどの体験を情報として得られる仕組み作りです。昨今、コロナ禍ということもあり、お祭りや行事がなかなか開催しづらい状況があります。八王子で生まれ育った私も、子どもの頃ですと浅川のグランドでのラジオ体操だったり、火の用心、町会のお祭りなど、地域の人が交流でき、よくも悪くも触れ合いがあった頃が印象的です。しかし、地域行事がだんだんと減少傾向にあり、子どもが交流できる機会も減少してきていると思っています。やはり、子どもの頃に触れ合っていた地域の人と人との関係というものは、人の温かさというものがあると僕は感じています。 また、お祭りなどの文化共有体験もコロナ禍で中止となり、作り手や受け継ぎ手など、再開する際のノウハウの伝承・継承といったことも危惧されると感じました。そのような際に IT などのツールを駆使し、AR（拡張現実）や VR（仮想現実）といったようなものを作り、作り手側と参加する側という形で分け、ともに体験できる仕組みができれば、コロナ禍という中でも子どもが積極的に高齢者の方に伝えたい、または高齢者の方が伝統というものを子どもに積極的に教えられるといった交流の循環が生まれるのではないかと考えました。こ	ター八王子博物館でも、車人形体験コーナーを設置し、来館者に車人形の操り方を体験してもらえるようになっています。 市民が伝統芸能に親しみ、体験する機会を提供することで、伝統文化への愛着を持っていただくと共に、文化財の担い手との交流を通し、文化財継承の一助を担っていただけるようなきっかけになればと思います。 一方、コロナの経験を通じて、デジタル機器などを使用した非対面での交流の場についても、必要性を感じました。 現状でも様々な取組みを工夫して行っていますが、更に工夫して行っていきたいと考えております。 次に情報発信についてですが、本市では、「広報はちおうじ」を月２回、各家庭に配布しています。 また、市民の皆さんのニーズに合わせ、ＳＮＳやホームページ等においても最新の情報を発信しています。 令和２年度からは、八王子市公式ＬＩＮＥでの情報発信を開始し、様々な市政情報をお届けしていますが、本年９月には、イベントや子育てなどのジャンルが選択でき、利用者が欲しい情報だけを得られるような仕組みに改善したところです。 また、子育て世代への情報に関しては、令和３年３月に「子育て応援サイト」を開設しました。 このサイトでは、子どもの年齢別で必要な情報を調べたり、子どもを対象としたイベント情報を手軽に探したりすることができます。 先ほどご紹介したＬＩＮＥからも、このサイトに簡単にアクセスすることができますので、ぜひ、ご活用願います。 必要な情報が簡単に取得できる仕組みについては、今後も世代やご家庭の状況に	

案件番号	意見・要望等要旨（発言者）	市長コメント要旨	担当所管
	のような形で、地域の交流が生まれ、高齢者や子どもにも双方に情報が行き渡り、地域を基盤に皆が笑顔で触れ合える八王子になれればと思いました。 （飯島 穣 様）	合わせたきめ細やかな対応が必要であると認識していますので、貴重なご意見として参考にさせていただきます。	
7	**【町会活動を若者の活動の場にすることによる活性化】** 私は、町会が若者の活動の場を提供できるようになっていくといいのではないかと考えています。 地域の絆ということをよく言われます。また、地域活性化ということを言われますが、その再構築のキーワードが「若者の活躍」と「情報の共有」、この２点だと思っています。本日も発言の中で、多くの方からコミュニケーション、情報共有、といったキーワードが出てきたと思います。まちづくりの基盤となる町会が、そうしたことを踏まえて展開できればいいのではないかという提案になります。 私は、八王子の市民となりまして 18 年になります。2003 年に越野の方に住んだのですが、その頃は地域の情報がなかなか入ってきませんでした。子供会からは情報が入ってきたのですが、町会に入会するための声掛け自体がなく、また町会には入っていなかったので、そういったところでの繋がりの機会がありませんでした。 その後 2008 年に南大沢の方に移り、現在、南大沢町会に所属しています。町会の中に入って初めて分かったことですが、町会の機能としては、１つは地域のお祭りなどのイベント、もう１つは、お隣に回覧板を持っていく時のコミュニティとか、そういったものだと思いました。そうしたことが防犯などに繋がっていくとともに、地域活動の支援とその HUB（結節点）になっているということが非常によくわかりました。	本市にとって町会・自治会は、行政と地域住民を結ぶ中心的な組織であって、また、地域コミュニティの形成にとっても、重要な役割を担っているところです。 近年、高齢者世帯も増えている中にあって、地震や豪雨等の自然災害も多くなる中、地域住民のつながりや災害時の共助の視点から町会・自治会の重要性というのは高まっています。 本市では、町会・自治会活動の活性化のため、平成 31 年４月に「町会・自治会の活動活性化の推進に関する条例」を制定し、町会・自治会が加入促進、集会施設の改修等に必要となる経費を補助する制度などを設け、町会・自治会活動を支援する取組みを行っています。 しかしながら、お話にあったように、町会・自治会への住民の加入率は残念ながら減少傾向にあります。各町会でも、様々な工夫をしながら加入促進を図っていますが、町会に加入するメリットを理解してもらえないことなどから、なかなか新規加入につながらないのが現状です。 また、町会・自治会の方からは、若年層の方に加入してもらえないと、そういうお話も聞いています。 南大沢町会の事例のようなデジタル化については本市でも現在進めていまして、令和３年度中にデジタル・トランスフォーメーション（ＤＸ）推進計画というのを策定し、市民、企業、大学及び町会・自治会等と連携して、デジタル技術を活用した地域	デジタル推進室 市民活動推進部

案件番号	意見・要望等要旨（発言者）	市長コメント要旨	担当所管
	具体的には、消防団とか子供会、老人会、住民協議会、青少年対策地区委員会、学校運営協議会、民生児童委員会、福祉協議会、他にも祭りをやる時に神社でやるので、その氏子さんたちとの交流、そのような形で住民同士がその地域を活発にしていくという共助の基盤になっていると感じました。中でも、街路灯の管理というものを町会でやっているということは、町会に入らないと分からないことでした。 その中で、課題も見えてきました。町会が存続の危機に瀕しているというのがその課題です。町会は今、非常に会員が減少しています。その結果、地域の活動が減少して、会の魅力自体も減少しています。結果的にその地域の生活基盤の崩壊が懸念されているところです。原因としては、高齢化や若い人が少ない、特に町会には以前からその土地に住んでいる持ち家の方が会員として多く入っていますが、賃貸で入っている方は、やはり外から来られている方が多く、そうした若い方の加入が少ない。また、役員の負担が大きい。人が少なくなるほど役員の周りが早くなってきて、それが負担になってしまいます。 ２つ目は、その町会の意義というのが十分に伝わっていないことがあると思います。お互いがお互いを助け合っていくという互助精神というのが、どうしても希薄化してきていると感じています。 その対策としては、開かれた町会というものを目指すべきだろうと思います。先ほどお話しさせていただいたように、いろいろな団体活動をしている人たちと町会というのは接していますので、そこに集まる情報というものをなるべく多くの人に伝えていくということで開かれた町会になり、また、会員の若返りをすることによって、役員の負担を軽減していく。結果的に	共生社会の実現に向けて取り組んでいく予定としています。 デジタル化の推進にあたっては、スマートフォン等の操作が苦手な方への支援など、誰１人取り残すことのないように、身近な場所で気軽に相談や支援を受けられる仕組みづくりが必要であると考えています。 このため、町会活動への若者参加、高齢者へのデジタル支援といった取組みは、本市も進めていくべき取組みと方向性を同じくするものです。	

案件番号	意見・要望等要旨（発言者）	市長コメント要旨	担当所管
	それが魅力を高めていき、人の交流となって互助の精神を育むという形になると思います。 　具体的には、南大沢町会では、町会の方々のご協力と賛同をいただいて、LINE を使って町会の情報を町会に入っていない方にも配信するという形をとっています。また、回覧板に関しても LINE でお知らせして、ホームページでそれを見ることができ、町会に入っていなくてもそういった情報が見られるようになることを考えています。このような縁の下の力持ちになって、若い人たちが町会の中で活躍できるような形になるといいなと思っています。 （飯田 公司 様）		
8	**【環境に優しいまちづくり】** 　私は、八王子を人だけではなく、環境にも優しいまちにすることを提案します。環境を守ることは、大気汚染の放出や地球温暖化の改善にもつながります。まちの景観が良くなり、活気があふれると、八王子市民の方々の心がより豊かになると考えました。八王子は人口も多く、商業施設や繁華街があり、その上自然にも恵まれています。しかし、まち全体が発展していくにつれ、大気汚染が進み、生物が減少し、環境破壊に影響を及ぼすことが心配されます。また、まちの景観が悪くなってしまうことも課題として挙げられます。このような問題を改善するには、自治体だけでなく様々な団体や地域が環境守る取組みを積極的に行うことが大変重要だと私は考えます。私の考えは２つあります。 　１つ目は、クリーン活動を盛んにすることです。以前、生徒会役員として青少対のクリーン活動を手伝わせていただいた時、私がごみの回収作業を担当していたところ、集まったそのごみの量を見て、とても驚きました。ごみは、ペットボトルや缶、	市でどのように環境を守っていくのか、市民に示していくことが必要だとの考えは、私としても非常に大事なことだと思う。 　本市は、人口 50 万人以上の都市におけるごみ排出量の少ない自治体ランキングで、３年連続全国１位になっています。 　これは、市民、事業者の皆さんとともに、ごみの分別、削減を進めてきた成果であり、この場を借りて感謝申し上げます。 　さて、本市におきましては、平成 26 年度から 10 年間を計画期間とする「第２次八王子市環境基本計画」を策定し、「未来へつづく、水とみどりにあふれた健康で心やすらぐまち」を実現するための事業に取り組んでいるところです。 　現在、この計画に基づいて、市内では、市と協働で多くの市民の皆さんや団体が環境に関する活動を行っていますので、その取組みを紹介します。 　まず、街中を緑化する取組みとしては、市民団体には、八王子駅前、南大沢駅前、道の駅八王子滝山など、市内６箇所の花壇	環　境　部 資源循環部

案件番号	意見・要望等要旨（発言者）	市長コメント要旨	担当所管
	タイヤや傘などがたくさんありました。 　また、私はポイ捨てをする人がこんなにもいることに正直悲しい気持ちにもなりました。そのため、これからはクリーン活動を盛んにすることで、八王子に落ちているごみやポイ捨てする人をなくしたいと思います。 　２つ目は、八王子の街中に植物を増やすことです。植物が増えれば緑が多くなり、八王子に住んでいる方々に癒しを届けることが出来ます。また、植物を増やすことにより二酸化炭素が吸収され、大気汚染などを防止することができます。 　私が考えた２つの取組みだけではすぐには効果が出ないかもしれません。しかし、クリーン活動に積極的に参加するなど、身近なことから一人ひとりが行動していくことで、いずれ環境は良い方向へ変わることが出来ます。また、それを実現するためには市民だけでなく、団体や地域の協力が必要です。私はクリーン活動を盛んにし、植物や生き物の存在に目を向け続けていきます。このことが、八王子が人だけでなく環境にも優しいまちに近づく一歩だと信じています。 （松田 華 様）	を草花で彩る活動を行っていただいています。 　緑地を保全する活動では、市内の多くの緑地を保全するために、地域の方のみならず、民間企業でも積極的に活動を行ってもらっています。 　更に、まちを綺麗にする清掃活動も、地域の方々の協力の下（もと）で、毎年行われていまして、みんなの町の清掃デーやみんなの川の清掃デーを美しい八王子をつくる会と一緒に企画して、市内の一斉清掃を実施しています。 　市としましても、そうした活動を支援するために、地域で清掃を行う町会・自治会に対しては、清掃物資を提供させていただいています。 　また、市民の方に環境を守る意識を高めていただく取組みも実施しています。 　毎年、８月～９月には八王子駅北口地下自由通路で、市内の小学生が描いたごみ問題啓発ポスターを掲示して、通行者への意識啓発を図っています。 　また、「ポイ捨て禁止」「不法投棄禁止」といった看板を作成するとともに、掲示の終わった小学生が描いたポスターについても行政や町会・自治会で活用し、市内のポイ捨てを抑制する活動に役立てています。 　地球温暖化については、市では地球温暖化対策地域推進計画の中で、市内の二酸化炭素の排出の削減量を、2030 年度までに 2013 年度比 33.1%削減する目標を立てています。これは、国が示した 2030 年度の二酸化炭素排出量の削減率を本市に当てはめて推計した目標値となっています。 　二酸化炭素は目に見えないものでありますので、幾ら数値でこのぐらい削減と言っても、難しい部分もありますが、本市で今二酸化炭素排出量の３分の１を占めてい	

案件番号	意見・要望等要旨（発言者）	市長コメント要旨	担当所管
		るのが、実は家庭からのものとなっています。そうしたことからも、地球温暖化の進行を少しでも抑えるためには、市民の方一人ひとりの省エネ意識の向上が必要だと考えています。 市としましても、多摩地域をリードするという決意をもって、真剣にこの問題に取り組んでまいります。	
9	**【育児者等が住みやすいまちづくり】** 私は、人と関わること、特に小さな子どもと関わることが大好きです。最大の理由は、小さな子どもたちと遊んでいると１日1 日を精一杯生きていく活力が感じられるからです。小さな子どもを見ていると、つい笑みがこぼれてしまい温かい気持ちになります。 また、子どもは常にエネルギーや元気に満ち溢れています。子どもがいることで、その場に活気があふれ、周りに良い影響を多く与えます。安心して子どもを産むことができれば、子どもが増え、多くの人に活力を届けることができます。だから、子育てをしやすい環境を作ることは、とても重要であり、このことは心が温まる魅力的な八王子につながると考えました。育児者等が安心して暮らせるまちを目指した取組みの提案は、３つあります。 １つ目は、夜間受け入れ可能な小児科や病院を増設する事です。夜間診療の受け入れ可能な病院は育児者だけでなく、高齢者や障害を持つ方などの助けになります。この取組みにより、安心して生活できる環境を作ります。 ２つ目は、子どもや高齢者、障害を持つ方など、誰もが楽しくまちを歩けるようにすることです。現在、八王子では、停めてはいけないところに自転車が放置されていたり、ごみが道に落ちていたりすることがあります。これらが原因で道を塞いでい	将来の八王子について考えたとき、特に子育てについての課題を解決していくことは、とても重要なことです。 私も就任以来、子育てしやすいまちナンバー１を目指して、全力で取り組んできました。 市では、令和２年度に、「みんなで育てるみんなが育つ　わたしたちがミライにつなぐ　はちおうじ」を基本理念とし、「八王子市子ども・若者育成支援計画」をつくり、子ども・若者にやさしいまち　子育てしやすいまち　子ども・若者が夢と希望を持ってあるけるまちの実現を目標にして、様々なことに取り組んでいます。そうした取組みのいくつかを説明します。 まずは、妊娠・出産の時期における支援についてです。 市では、保健福祉センター・子ども家庭支援センター・学校など様々な相談機関で、妊娠している時期から切れ目のない子育て支援をする仕組みである「八王子版ネウボラ」を実施しています。 「八王子版ネウボラ」の取組みの１つとして、保健福祉センターでは、妊娠している時期から出産、そして小学校入学前までの子どもを対象とした、成長や発達などについての相談を保健師・栄養士・歯科衛生士が行っています。また、成長の節目では、乳幼児の健康診査を行い、子どもの健康の確認や保護者からの相談を受けています。	医療保険部 子ども家庭部

案件番号	意見・要望等要旨（発言者）	市長コメント要旨	担当所管
	たり、交通の妨げになっていたりします。その現状を改善するためにボランティアの方々を募り、積極的にごみ拾いを行います。また、その取組みを行うと同時に挨拶運動を行います。そうすることで、多くの方と明るく交流することができます。皆さんとの交流で、私たち中学生も街中の方々に元気を届けられると考えました。 ３つ目は、育児者等の生活を支えることです。具体的には、紙おむつや粉ミルクなど、乳幼児に必要な生活用品を配布すること、障害を持つ方へ車椅子の貸し出しをすることです。 この３つの取組を行うことで、誰もが快適に暮らせるまちの日本ナンバーワンが果たせるでしょう。そして最後に、私は現在の八王子が大好きです。今よりも誰もが安心して暮らせるまちにすることで、八王子に住む全員が、まちに誇りを持つことができます。そして、人と交流し、楽しく活き活きと毎日を過ごすことができるのではないでしょうか。 （鈴木 月渚 様）	昨年から今年にかけては、新型コロナの影響もあり、子育てに不安を抱えている方も多くなっているにも関わらず、子育てに悩んだ時に相談したくても身近に相談できる人が少なくなっている様子が見受けられました。また、新型コロナの感染予防や拡大を防止するということから、市役所に来たり、相談員がご家庭に訪問し相談を受けることも、敬遠される方がいました。 現在、コロナ禍で行動の制限がある中であっても相談できるようにオンライン環境を整備しておりますが、気軽に相談できる環境があることをしっかりと市民の皆さんに周知していきたいと思います。 また、小児科のある医療機関は、市内には８２箇所あります。夜間の診療体制については、市内３つの病院（八王子医療センター、東海大八王子病院、南多摩病院）が対応しているほか、市でも夜間救急診療所を開設・運営し、切れ目のない小児医療を提供しています。これからも未来を担う子どもたちが安心して医療を受けることができるよう、八王子市医師会とも連携し、小児医療体制を充実していきたいと思います。 社会環境やニーズが変化する中で、「子育てしやすいまち」の実現のためには、まだまだ取り組まなければならないことも多いですが、今回、提案していただきました課題の解決策も踏まえ、八王子の未来の姿を思い描いて、取組みを着実に進めていきたいと思います。	
10	**【「日本一の教育都市　八王子」の実現】** 八王子市の輝かしい未来を創造するためには、現在市が掲げている「子育てしやすいまちづくり」を推進するとともに、豊かな八王子市の教育資源を最大活用し、子どもの教育を充実させることで、子どもに確かな学力を身に付けさせ、地元企業での	市民学習ボランティアに関連するものの一つとして、市では「放課後子ども教室」という事業を実施しています。 放課後子ども教室は、地域の実情に応じて実施している「放課後の居場所提供」を主な目的としていることから、ご提案に応	学校教育部 生涯学習スポーツ部

案件番号	意見・要望等要旨（発言者）	市長コメント要旨	担当所管
	就職に結びつけていくことが八王子市の未来には欠かせないと考えます。 子どもたちは、学校での授業が分からないこと、愛情ある見守り体制が不十分なために、自己肯定感が下がり、学習の規律が乱れ、いじめ、不登校、地域での不良行為など問題行動を誘発することがあります。逆の言い方をすれば、学校教育に地域の力を取り入れ、子どもたちにたっぷりと愛情をかけ、学力をしつかり定着させることで、子どもたちは自己肯定感を高め、確かな学力を土台に健やかに未来に向かって成長すると思います。 元八王子小・中学校では、近年週１時間の「元八タイム」を設定し、ともにタブレットＰＣを用いて既習事項の定着を進めるとともに、元八王子小学校において「放課後子ども教室」主催で元八王子中学校生徒導による「放課後学習教室」を隔週で進め学力定着を図っています。また、小学校での算数の学習時にはＰＴＡや学校運営協議会が中心となり、学習補助を行っています。更に地域教育力向上のために、教員と地域・保護者がともに教育についてともに学ぶ会「学び舎研修会」を年４回行っています。加えて、元八王子中学校においては、学校運営協議会が主催となり「漢検」「英検」「数検」を中学校を会場に小学生も招いて行っています。このような活動の中、近年、小学生の保護者も一緒に参加するなど、自然と教育への関心が高まってきています。ぜひ、これらの地域ぐるみの取組みを八王子市全校でも進めていただきたいと考えますが、学校、地域の努力だけでは学習サポートについて人的な限界があり、中核都市としての地域人口と、地域の大学を数多く抱える八王子市の強みを最大限に活かし、２点の施策を進めていただけるよう市長に強くお願いしたいと思	えられるような学習補助に特化したものではなく、校庭での外遊びが中心であり、また、スポーツや芸術など、様々な活動プログラムといった体験活動の機会を提供する場でもあることから、市内全校一律ではなく、地域のニーズにあった取組みとなっているのが実情です。しかしながら、活動を担っている運営団体の中には、地域で学習を支援するプログラムを実施しているところもあり、こういった取組みをさらに進めていきたいと考えています。 また、英語教育の充実や国際理解を進める取組みとしては、小学校５・６年生を対象とした市内大学等からの留学生との交流事業があります。 この取組みの中で、子どもたちは日々の授業で学んだ英語を使って留学生と交流活動を行うことで、外国の言語や文化についての理解を深めていくとともに、外国語を用いてコミュニケーションを図る機会を得ることができています。 提案にもあった小・中学校における大学生による外国語活動及び外国語科への授業参加については、大学側との運営上検討すべき課題はあるかと思いますが、今後の参考とさせていただきます。 今後の方策として、まずは学校支援ボランティア人材バンク事業の強化に取り組んでいくことが必要だと考えています。これは、学校活動に携わっていただけるボランティアの方々を募集・登録し、学校からの依頼に応じて紹介していくものとなっています。日頃から学校活動を支えていただいている地域の皆さんとともに活動できる人材を確保するため、大学・団体等に広く働きかけを行い、事業の充実を図っていく予定です。	

案件番号	意見・要望等要旨（発言者）	市長コメント要旨	担当所管
	います。 提案の１つ目は『市民学習ボランティア』の創設です。学校だけではなく、市が率先して市民及び市内の大学に向け、「市民学習ボランティア」を募集し、謝金補助を行うとともに、希望する学校にご紹介いただく仕組みの構築をお願いしたいです。市民にとっても学習補助は、子どもたちの分かった笑顔に出会える絶好の機会となり、生涯学習の視点からも循環を促す最大の好機となります。また、市民の専門知識を最大限教育に投ずることで地域教育力を活かした質の高い学校教育が可能となります。市民ボランティアポイントや市民ボランティア表彰なども併設すると有効であると考えます。 　更に大学において、市との連携制度を活用し、無償ボランティアとして大学の単位化を進めることで、子どもたちはお兄さんやお姉さんにあこがれをもって学び、地元で育て地元で活用する教員をも創出することが可能となります。 提案の２つ目は、『大学と連携した英語教育の推進』です。国際化が進む中、小学校においても「英語教育」が本格化しています。八王子市に大学が多い強みを活かし、小・中学校における大学生による英語の授業参加、大学のゼミと連携した授業づくり、教員研修等を通し、英語教育の推進を図ることを提案します。また、大学生にとってもメリットがあるよう、単位化を進めることで大学と Win-Win の関係をつくる事が可能ではないかと思います。 　これら２点の市と連携した施策を進めることによって、『日本一の教育都市八王子』が実現されることを強く期待します。 （中原 教智 様）		

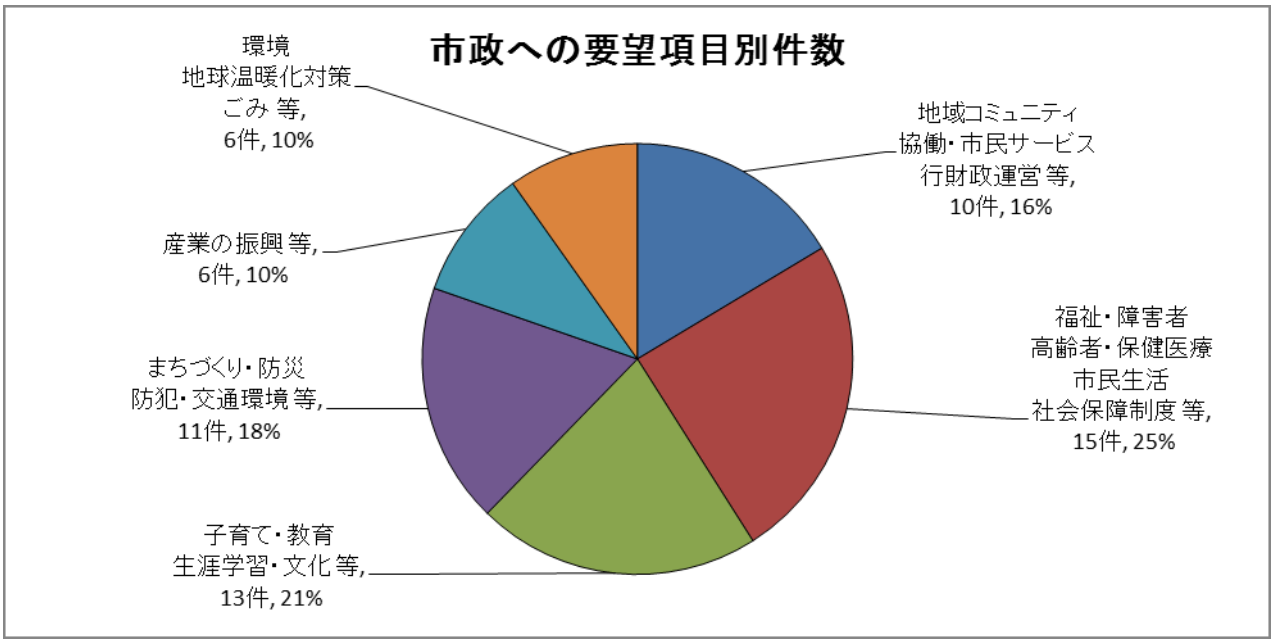
案件番号	意見・要望等要旨（発言者）	市長コメント要旨	担当所管
11	**【里山で体験し、環境意識を高めるまちづくり】** 八王子は、他の市町村に比べて里山がすごく多いところです。その里山の中で体験することによって、地球温暖化とか自然災害とか食料生産とか、いろんなことを学ぶことができます。また、そこに住む昆虫とか植物、水の中のヤゴとかゲンゴロウとかそういうものを観察できます。また、椎茸を栽培したり、炭を焼いたり、そういった様々なことを子どもたちと一緒にできたらいいなと思っています。 私は NPO 法人の主催で高尾山に来ている子どもたちを対象に高尾山のイベントでの専任講師をやっています。これは 15 年ほど続けているのですが、その中でいろいろ体験する中で、子どもたちに接しながら指導したり褒めたりすると子どもたちの目が輝いてきます。そうした経験から、子どもたちがいろんなことを体験していくことは大きな意味があるということを実感しています。ある調査では、自然の中で体験した子どもほど、正義感・道徳感が強く育つという結果が出ています。また、勉強に対するやる気も強くなるという調査結果も出ています。そうしたことからも、里山の中で、子どもたちを一生懸命遊ばせたり、学ばせたりして、子どもたちが将来八王子を背負って立つ、更には日本を背負って立つ人材に育っていってほしいと願っています。 （山口 茂 様）	本市には、上川の里特別緑地保全地区や堀之内里山保全地域などの数多くの「里山」があります。 この上川の里・堀之内の里山は、本市の魅力となる風景を選んだ八王子景観 100 選にも選ばれています。 里山では、山の落ち葉を肥料としたり、薪として木々を燃料とするなど、農業等を中心とした暮らしのなかで、身近なものとして、人の手が自然に入っていて、そうしたことで森林の深くにまで日光が届き、豊かな自然が育まれていました。 それが、人々の生活の変化に伴い、かつての田畑は荒れ果て、山林の維持管理が行き届かなくなり、里山を保全するためには積極的に下草刈りや間伐を行うことが必要となっているのが現状です。 そのため、里山の維持管理には、地元の方々、ＮＰＯ、企業等に協力してもらっていて、例えば、上川の里特別緑地保全地区では、地元小学校も含め、協働しながら、田んぼづくりや下草刈り、間伐等を進めているところです。 里山の環境は、多くの可能性を秘めています。子どもたちや、その親世代が里山でたくさんの体験をすることで理解が深まり、地球温暖化や自然災害、生物多様性など、広く自然環境を保全することの重要性について意識を高めることが期待されます。また、豊かな里山に触れる体験は、人づくり、まちづくりにも寄与し、八王子の未来を考える上では必要不可欠なことであると確信しています。 本市の宝とも言える里山を維持し、皆さんと一緒に有効に活用していきたいと思います。	環　境　部 まちなみ整備部

5　過去の提案等取組状況

令和元年度（2019 年度）「市長と語る」の提案等取組状況

開催実績　　テーマ：「みんなで支え合い、安心して暮らせる地域をつくるために」

開 催 日	会場	延べ参加者数（人）	発言者数（人）	発言項目数（件）
5月25日	八王子駅南口総合事務所	105	8	8
6月1日	元八王子市民センター	76	7	7
6月22日	由木東市民センター	55	6	7
6月29日	由井市民センター	61	7	13



次ページから、令和元年度（2019 年度）の「市長と語る」でいただいたご意見・ご提案とその後の取組状況の一例をご紹介します。

令和元年度（2019 年度）の「市長と語る」でいただいたご意見・ご提案とその後の取組状況について

＜意見＞　**「支え合いの輪を広げる為」について**

市民同士の支え合いを深める施策の一つとして、家庭にある食品を寄贈していただき、食品に困る方々に手渡すフードバンクを応援してほしい。

食品の寄贈箱を市役所や支所に設置し、食に困る方々を支える姿勢を積極的に示せば、市民の生活意識が変わり、みんなで支え合い、安心して暮らすことのできる地域づくりに寄与することになると思う。

（森山　由実　様）

≪市長発言（当日）≫

市では、子ども食堂やフードバンクなどの団体で構成されたネットワーク会議を定期的に開催し、情報共有や意見交換などを行い、ホームページや広報等で子ども食堂やフードバンクなどの活動を発信し、市民の理解を深める支援を行っている。

一方、市職員の食品ロス削減、あるいは生活困窮者対策についての意識を高めるため、家庭では食べ切れない贈答品等の食品を持ち寄る仕組みづくりを進めている。

引き続き、フードバンク団体と生活にお困りの方をつなぐ橋渡し役を担い、フードバンク活動を市民の皆さんに周知するなど、市民主体の活動を応援していく。

【その後の対応】

フードバンク活動について、都の制度の利用を通じた活動の拡大と、市の関与の在り方についてフードバンク団体と協議を行っている。

市職員組合が実施するフードドライブに八王子食堂ネットワークが協力できるよう、八王子食堂ネットワークの委託契約の仕様書にフードドライブ事業を追加することを検討している。

＜意見＞　**「元八王子町２丁目の地域猫活動」について**

私は元八王子町２丁目で「地域猫活動」をしていて、市から野良猫の手術に対して助成金が出ているが、それ以上に費用がかかるので、ボランティアの負担を軽減するためにも助成金を上げてほしい。

また、八王子は自然が多く、動物を飼うにはすごく良いまちなので、動物愛護の拠点となるような施設をつくってほしい。

（野下　由希子　様）

≪市長発言（当日）≫

市では、人と猫との共生社会の実現を図るため、平成 23 年度（2011 年度）から飼い主のいない猫に対する不妊去勢手術の助成金制度を設けている。

実際の不妊去勢手術費用と市の支援とのかい離があるということなので、今後、検討させていただきたいと思う。

本市は平成 27 年（2015 年）に中核市に移行し、動物愛護の分野についても条例を制定するなど力を入れて取り組んでいるが、飼い主のいない猫をめぐる問題の多くは行政だけでは解決することが難しく、地域住民やボランティアの方々の力が不可欠である。

今後、行政としても必要な施策の展開をしていきたいと思う。

【その後の対応】

野良猫の避妊去勢手術助成金については、令和 2 年度（2020 年度）から避妊手術について 1,000 円の増額を行う。予算増額は行わず、避妊手術実施可能頭数を減らすことで対応。

動物愛護拠点施設の整備については、施設設置に向けて土地選定等の検討を実施している。

＜意見＞　**「市内のより多くの小学生に防災の大切さを知らせたい」について**

私たちは地域の防災活動や東日本大震災の被災地の応援のため、「ちーむべりぃぐっど！」という団体を結成した。

主に子どもを対象とした防災活動を行っているが、子どもから地域へ、そして大人へ防災の輪が広がっていくようなまちになってほしいと思う。

今後もより多くの小学校で防災教室を行いたいので、私たちの広報活動にご協力いただき、また、市などで実施する防災訓練やイベントに僕たちを使ってほしい。

（飛川　優　様）

≪市長発言（当日）≫

子どもたちが防災についての基礎的・基本的な事項を理解して、安全に関して自分で正しく対応するための思考力、あるいは判断力や行動力を身につけること、災害時に進んで他人や地域社会の安全に役立つことができるような能力や態度を養うことは非常に重要であり、特に、いつ、どのような規模で発生するか予測できない大災害に対しては、子どもたちが瞬時かつ臨機応変に安全な行動がとれる危機回避能力の育成が必要である。

市としても、各市立学校のホームページや市教育委員会公式フェイスブックなどを通じて、皆さんの取組を広く市民に周知するなど、活動内容の周知に積極的に協力するので、ぜひこのような活動を続けていただきたいと思う。

【その後の対応】

令和元年（2019 年）9 月 2 日(月）に楢原小学校において、「ちーむべりぃぐっど」が防災教育を行ったので、その様子を学校教育政策課が取材し、市教育委員会公式フェイスブック「はちおうじの教育」等を通じて、市民に周知した。

令和元年度（2019 年度）の総合防災訓練に参加予定であったが、令和元年東日本台風の影響で防災訓練が中止となったため、令和 2 年度（2020 年度）の総合防災訓練に参加できるかどうか確認を行う。

＜意見＞　**「自治会結成・加入率向上に向けた今後の施策」について**

少子高齢化に突入する中で、地域のセーフティーネットとしての自治会は、今後、より重要になると考える。

そのような中、「町会・自治会活性化の推進に関する条例」が施行され、どのような支援を住民組織に行っていくのか伺いたい。

また、自治会をはじめとする住民組織が、住民にとっての居場所になることが、今後の自治会運営を考える上で重要となり、加入率向上につながると思う。

自治会の加入率向上に向けた市の取組についても伺いたい。

（田中　翔太　様）

≪市長発言（当日）≫

ご指摘とおり「地域のセーフティーネット」として今後ますます町会・自治会の役割は重要になると認識している。

町会・自治会の活動がより一層活性化し、地域が元気になることを期待して「八王子市町会・自治会の活動活性化の推進に関する条例」を本年４月に制定した。

本条例で重要なことは、市民の皆さんに町会・自治会活動の重要性を再認識していただき、理解を深め、活動への参加・協力・加入といった行動に移していただくきっかけとなることだと思う。そのため、昨年に続き「広報はちおうじ」の町会・自治会特集号で活動紹介なども行い、転入者や外国人、新入生などにチラシや冊子等を配布し、加入促進に関して周知・啓発を進めている。また、町会・自治会連合会と協力して、「町会・自治会加入促進ハンドブック」を作成し、加入促進活動への取組事例などを紹介し、活動の目安として活用していただいている。

町会・自治会への支援については、町会・自治会で管理する掲示板の新設、あるいは修繕を助成する制度を創設した。さらに、町会・自治会の皆さんが、コミュニティの醸成、あるいは地域課題の解決に向けた取組に注力できるよう、ご意見を聞きながら、加入促進に向けた支援メニューについても、引き続き検討していく。

【その後の対応】

令和２年度（2020 年度）から町会・自治会が加入を促進するために実施する事業に対する補助メニューを新設。

■補助対象：加入促進活動に使用するグッズの作成費・購入費、映像作成費、イベント時の加入促進ブースの設置経費等に対する補助

＜意見＞　**「子どものために集うまちづくり」について**

　由井第三小学校では放課後子ども教室を行っているが、社協の協力をいただきながら、シニアサポーターの方々に見守りしてもらっている。

　もっと地域の方へ直接呼びかければ人材発掘にもつながると思うが、市としてどのような取組があるか、どういうものを使えばそのような人材にめぐり合えるか教えてほしい。

　また、由井市民センターにＣＳＷ（コミュニティソーシャルワーカー）が６人配置されているが、地域にもっと増えれば、もっとサポートしてもらえると思う。地域のつなぎ役という意味では配置の充実をお願いしたい。

（湯浅　直樹　様）

≪市長発言（当日）≫

　由井地域には、昨年、地域福祉推進拠点の開設をして、地域が抱える福祉課題の解決に向けた、地域住民との連携した支援に取り組んでいる。

　また、地域で活躍の場を求めているシニア世代の方々に「勉強お助けサポーター養成講座の説明会」を開催したところ、当日は定員を超える方のお申し込みをいただき、地域にはいろいろな活動に興味がある方が多いことを感じた。

　今後もこのような講座を通して、いろいろな活動に興味がある方を把握し、情報提供することで、地域に元々いる方の力が地域で活かせるような取組を行っていきたいと思う。

　引き続き、コミュニティソーシャルワーカーは地域の人材発掘や地域の人材をつないでいく役割を果たしていくが、人員については事業の成果を踏まえて検証していきたいと思う。

【その後の対応】

**　地域福祉推進拠点におけるＣＳＷ（コミュニティソーシャルワーカー）の配置については、社会福祉協議会でこれまでの事業の検証を行った結果、令和２年度（2020 年度）は体制強化のために人員の増員を行うこととした。**

６　開催案内ポスター（発言者募集時）

令和３年度（2021年度）

市長と語る

発言者募集！

～ 長期ビジョン策定に向けた市長との対話 ～

テーマ　私が考える未来の八王子

市民の皆様が考える“はちおうじの未来”について、「こんなまちに暮らしたいな」「こんなまちになったらいいな」という想いを市長にお聞かせください。

地域の皆様や学生、子育て中の皆様など、多くの方の発言申込をお待ちしています！

発言申込方法

11月2日（火）までに、次のいずれかの方法でお申し込み願います。

- チラシの裏面の「発言申込書」を郵送またはFAXで申し込み（発言申込書は、市内各事務所、市民センター等で配付。市ホームページからもダウンロード可能）
- 市ホームページから提出いただく場合は、下のURLまたは右の二次元コード「インターネットフォーム」にて申し込み
（https://www.shinsei.elg-front.jp/tokyo2/uketsuke/form.do?id=1629093356829）

留意点

- テーマに関わる内容以外のご提案は、ご遠慮願います。
- 申し込み多数の場合は、抽選とさせていただきます。
※申し込み結果につきましては、後日連絡いたします。

新型コロナウイルス感染症対策のため、発言者と市長の対話の様子は収録したものを市の公式YouTubeで配信します。なお、**収録会場への入場は「発言者に限定」**させていただきます。

（収録日時・場所：11月27日（土）18：30～20：00　クリエイトホール）

配信につきましては、後日、市広報、市ホームページ等でお知らせします。

〈お問い合わせ〉
八王子市 総合経営部 広聴課　〒192-8501 八王子市元本郷町3-24-1
☎：042-620-7411（直通）　FAX：042-620-7322

あなたのみちを、あるけるまち。八王子

開催案内ポスター（動画配信時）

八王子市公式YouTubeチャンネルで動画公開します。ぜひご覧ください！

公開日　令和3年12月10日(金)～

令和３年度（2021年度）

「市長と語る」

～長期ビジョン策定に向けた市長との対話～

テーマ　私が考える未来の八王子

市民の皆様と市長との対話の様子を
動画配信しています。（11月27日（土）収録）

下記URLまたは二次元コードよりご視聴いただけます。

八王子市公式ユーチューブ　市長と語る　**検索**

市ホームページ

https://www.city.hachioji.tokyo.jp/shisei/001/002/005/007/p014146.html

※ご覧いただいた方の感想やご意見をお待ちしています！
アンケートはYouTube配信画面の概要欄又はホームページからご入力いただけます。
アンケート期間（12/10～12/25まで）

【お問合せ】
八王子市　総合経営部　広聴課　電話：042-620-7411　FAX：042-620-7322

あなたのみちを、あるけるまち。八王子

令和３年度（２０２１年度）「市長と語る」の記録
令和４年（2022 年）２月

発行：八王子市　総合経営部　広聴課
〒192-8501 八王子市元本郷町３-24-１
電話 042(620)7411（直通）
FAX　042(620)7322